1．起業家の共通点

大阪商業大学　学長　谷岡　一郎

起業教育の研究が始まって、もう随分年月が経ったように思います。勉強会が継続し、内容がますます濃くなっていること、関係者の皆様そして高校現場で活動している皆様に、心より感謝とお喜び申し上げます。

ご存知のように大商大の位置する東大阪市は、中小企業を中心として、起業をスタートする街として知られています。そこで実際に起業している人々に共通する点がいくつかあると考えています。

ひとつめは、何かを作る、何かをするというアイデアだけでなく、起業者たちは苦労してそれを売れる製品にしていく、「組織の運営」にも力を発揮している点です。組織というものは、人事があり経理システムがあり、そしてそれらをまとめていく総務を含む管理体制（ガバナンス）が必要です。つまり物作りの理工系知識・アイデアに加えて、社会科学の知見も重要になってくるわけです。世の中では理系人間とか、文系人間とかに分ける風潮が見られますが、ここで必要なのは長期のマクロ的見地を持った総合的人材だと言えますね。理系だ、文系だというのは気にする必要はありません。東大阪で成功した人々に共通するのは、こうした幅広い知見を持っていることでしょう。

ふたつめの共通点は、失敗を恐れずやってみようという「チャレンジ精神」です。ともすれば思考が停止し、何も新しいことをやりたくないという、後ろ向きの日本人ばかり目立つ社会において、何か新しいことに挑戦するのは勇気のいることです。でもチャレンジなくしては、日本は発展・進化する多くの国との競争に敗れる国になってしまうでしょう。もうすでに、追い上げている国々に勝てなくなっている分野もあることは、皆さんがご存じのとおり。「せめてリードしている分野を守ろう」などと考えるのは、すでに半分後ろ向きになっていますよね。それより次に世界をリードする分野に（たとえ失敗しても）挑戦するんだという気持ちが大切なのです。

挑戦に失敗はつきものですが、それであきらめる人や潰れてしまう人は、（残念ながら）それで終わりです。また成功したかに見えても、思わぬ要素（たとえば突然のコロナ禍）が介入したり、大資本による競争への参画によって、苦しい状況に置かれることもあるでしょう。資本主義が成立する大きな要素のひとつは、市場に受け入れられなくなった側が淘汰されていくことですから、それもまた仕方ありません。ライバル企業より良いものを適切な価格で提供する新たな工夫があり、それが我々の世の中を発展させていくのです。

最後にあげる共通点として、少なくとも私が会った中小企業のトップの方々は、人間力があるというか、「尊敬できる生き方」をしていることが多かったようです（全員とは言いませんが）。何かを決断した時、他の人々がついて来るか。あるいは失敗した時にそれを許してくれるか。最終的にはそのリーダーのカリスマ的魅力が物を言うのですが、成功者にはそんな素養のある人が多いという意味です。この研究会が進める起業家の育成において、最も必要でかつ最も難しいのは、この人間力の向上かもしれません。

大商大は、次世代の起業家を育てることを誇れる大学でありたい、と考えています。この研究会および報告集は、そのための大きな力ですし、これからもずっとそうあってほしいものです。関係者の皆様のご尽力にもう一度感謝し、私からのお礼とさせていただきます。